

環境分科委員会のプロジェクト

北東アジア地域との渡り鳥に関する共同調査

1.目的

日本では、極東地域をはじめ大陸から渡ってくるツグミ、カシラダカなどの小鳥類の渡りのルートなどを解明するための全国的な調査体制が整備されている。

しかし、これらの渡り鳥の繁殖地及び移動コースであると考えられている極東地域では、日本と大陸とを往来する渡り鳥ルート等が解明されていない。

このため、富山県とロシア沿海地方では、渡り鳥の移動経路、寿命、繁殖開始年齢などを解明するための標識調査を1998年から共同で実施している。

2.経緯

- (1) 実施時期 渡りの時期である春期及び秋期
- (2) 実施自治体 ロシア沿海地方、富山県
- (3) 実施方法 両自治体が民間団体等の協力を得て実施
- (4) 調査方法及び報告書の作成

(調査方法)

- ・ 鳥類誘引機材(おとり)を用いて、渡り鳥をかすみ網で捕獲。
- ・ 捕獲した個体は、種別や体重等を記録し、標識調査用の足環を装着後、再放鳥する。

(報告書の作成)

- ・ 共通した記録様式で調査結果をとりまとめ。

3 2003年調査結果

(1) 調査結果

- ・ ロシア沿海地方で約1万2千羽の渡り鳥に足環を付けた。
- ・ 調査方法や標識調査結果の整理作成について、ロシア沿海地方との共通理解が深まった。
- ・ 2003年9月、富山県の専門家及び中学生のジュニアナチュラリストをロシア沿海地方へ派遣しロシア沿海地方のエコクラブの生徒との交流を図った。

(2) 調査成果

- ・ ロシア沿海地方及び富山県での鳥類保護に関する青少年の意識の向上が図られた。

4 2004 年実施状況

(1) 実施自治体 ロシア沿海地方、富山県

(2) 実施状況

- ・ 春期にロシア沿海地方の専門家及びエコクラブの生徒を富山県に受入れ、共同調査を実施。
- ・ 秋期に両自治体で標識調査を実施。



2003 年 9 月、ロシア沿海地方での共同調査の様子。

富山県のジュニアナチュラリストも参加し、網場で捕獲鳥の回収を実習。



2004 年 4 月、富山県での共同調査の様子。

ロシア沿海地方のエコクラブの生徒も参加し、巣箱かけを共同で実施。